

# 安佐南区役所芸術展示 作品解説

【本作品の展示期間：平成30年3月3日から約1年間】

## 工芸展示作品「GEMME」 作者：古川 千夏 (FURUKAWA Chinatsu)

2016年 <材質>七宝、純銀、銅



私の作品は有線七宝技法で制作しています。本来なら絵柄の輪郭を形づくる銀線を、あえて突出させて研磨を省いた、独自の技法を用いています。見る角度によって釉薬、銀線、素地の銀がそれぞれ違った輝きを放ち、作品が置かれる空気感、見る人の感情によっても作品の表情が変わって見えます。これまでの七宝にはない、輝きや奥行きのある表現を目指しています。タイトルの「GEMME」は、フランス語でキラキラ輝く、宝石をちりばめるなどの意味を込めています。

## 工芸展示作品「乾漆海洋生物箱<鱈>」 作者：中村 美緒 (NAKAMURA Mio)

2018年、漆、麻布、和紙、卵殻、錫粉



これはモンダルマガレイという南の海に広く生息するカレイです。色漆や卵殻で模様を描くことで、そのカラフルで独特な模様を表現しました。更に透明感のある透漆を重ねることでカレイの皮膚のぬるぬるとした質感と皮膚の奥から湧き出てくるような模様を表現しました。また、漆器として使用できるように箱ものに仕上げました。

## 日本画展示作品「カゼノコ」 作者：鈴木 奈緒 (SUZUKI Nao)

2015年 <材質>M6号、土佐麻紙、岩絵具、墨、銀箔、黒箔



パンダのような白黒の色合いと首まわりのふわふわとした襟巻きのような長い毛がとても印象的な小動物、エリマキキツネザルを描きました。もともとアフリカのマダガスカル島だけにすむサルで、広島では安佐動物公園で観ることができます。動物園では冬でもおりの中を元気に飛び回っていましたが、南国生まれだけに本来は寒さにはとても苦手なようです。

## 油絵展示作品「Landscape」 作者：青原 恒沙子 (AOHARA Hisako)

2017年 <材質>紙、不透明水彩絵の具



カメラを構え、木々の隙間から川の向こうの風景を見る。近くの木や葉も、川向こうに見える木々も水辺も全てぼかし、風景が光の粒になってしまうように撮影をし、それを紙の上に描きました。ふとした日常で、木々の隙間が作り出す光の粒のひとつひとつがまるで、ピンホール・カメラの穴のように見える瞬間があり、その光を拾って行きたいと考えました。

また、今日の写真や映像に見られるような、解像度の高く鮮明な風景にリアリティを感じられず、人が見る風景というのはもっと流動的で、ぶれのあるものと考え、制作しています。

## 彫刻展示作品「家」 作者：坂本 萌子 (SAKAMOTO Moeko)

2015年 <材質>赤トラバージン



私は主に人体彫刻の研究をしています。これまでスケッチしてきた、様々なモデルが取る様々なポーズを元に、身体の動きを彫刻で表現したいと思いこの作品をつくりました。また、筋肉をおもわせる赤い石に身体の動きを刻みつけていくことが、家に人が住まい、そこに個性が生まれることのように思え、「家」というタイトルとなりました。

## 彫刻展示作品「ウインドウ」 作者：土井 満治 (DOI Mitsuharu)

2013年 <材質>砂岩



この作品は、砂岩のかたまりを薄くL字に削りだし、そこに家や人工物や山を造形しています。量と厚みを無くしつつもかろうじて自立する現実の石と、そこに刻まれた小さな架空の世界の相互作用によって、目の前にありながら手を伸ばしても届かない距離感と物語として紡がれる時間的広がりを持った独自の風景の創出を目指しています。